

【議案第28号】
令和7年度浜田市一般会計予算

議案第28号令和7年度浜田市一般会計予算の原案に賛成をし、修正案の反対の立場から討論を行います。今後の浜田市の歩みを決める大きな問題、市政をしっかりと前に進めることを決めなければいけない事態であることから、修正案に強い思いを持って反対を表明します。そして、市政の混乱を収めたい、市政に携わる一端の者として訴えてまいります。

このたびの予算案、修正案の違い、あるいは修正案が、市政の停滞を招くこと、これについては、多くの方から討論がありました。それはそちらに譲ります。言うまでもなく浜田市は、古代石見国庁の時代、中世益田氏の庶子家がこの一帯を、三隅氏、周布氏、福屋氏、永安氏が治め、そして浜田藩の時代を迎え、周辺にはかんな流し、そしてたたら製鉄、玉鋼は中国山地を越えて瀬戸内海に流れ、また北前船で全国各地に出てまいりました。そしてその文化というのは、ユネスコ無形文化遺産の石州半紙、日本遺産の石見神楽などと、歴史と文化を積み重ねてきています。こういった歴史文化をきちんと整理し情報を発信することで、市に対する理解を深め、浜田市に対する愛着を揺るぎないものとし、市民として誇りを持つこと、そのような浜田市をつくる。これが今、市政に携わる者の最も大きな責務であります。幸い市議会では、歴史文化の大切さ、それを市民と共有し、新たな浜田市づくりを進めること。これは市議会の大方の総意であることに疑いを持ちません。その歴史文化が今、内外から注目され、これからさらにどう大きく花開くのかが問われております。

石見神楽が日本遺産に認定をされ、石見神楽をつくり出したまちを自認する浜田市は、それを発信し、そして、地域に発展をつなげる大きな責任が市政にあることは論を待ちません。石見神楽を核とした地域振興を進め、いわば地域の歴史文化の結晶である石見神楽を広く見ていただく。それにより市内外から人を呼び込み、地域の元気をつくっていく。これも市政に課せられた大きな仕事であります。この歴史文化を礎に、今花開こうとしている石見神楽、加えて、浜田市の玄関である浜田駅前のにぎわいをつくり出す。若い人や女性の活躍できる地域をつくる。そして島根県西部の石見地方の都市として、その顔をつくる、たたずまいをつくる。これを後世にきちんとつなげることが今求められています。このことを通じ、次代を担う子供たちにそれをしっかりと伝え、いつまでも浜田市に対する自信と誇りを持ち、愛着をつくっていく。そのことにより、限りない浜田市の発展をつくっていく。このことが市政の課題であります。

これについて議会でも大方の方向感が出ており、今こそそれを後退させることなく、立ち止まることなく、しっかりと進めることこそ、今市政に携わる者の責任であり、

令和7年3月定例会議 芦谷 英夫議員 賛成討論

次の時代へ送るメッセージであることを、市政に携わる者、深く深く認識し、お互いに胸に刻み、肝に銘じ、誤りのない判断をしたいと思っています。

今議会は、あと任期が半年になりました。言わば仕上げのときであります。議会として市政運営にどう役割を果たしたのか、市民の負託に応えたのか、しっかり振り返り、私たち議員一人一人は市民の明日をつくる、次につなげることをきちんと進める。そういったことを議員各位の賛同をお願いして、討論を終わります。